



バレンタインデー・ホワイトデー
 合体行事は、普段の班活動とは
 違う、各棟に分かれての活動と
 なりました。それぞれに工夫を
 凝らして楽しく過ごしました♪



ゲームあり！



拡大！

3 月半ばまで続
 いた各棟分離の
 生活。旧棟女性
 のドアには手作り
 のひな壇が裝飾
 されました。



スイーツあり😊

里だより

No.363

令和4年4月1日

一発行一

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



行事予定・
 ありがとうございます。
 退職者あいさつ・
 編集後記……………7

行事報告……………6

職員より・調理場より……………5

相談より……………4

サビ管より……………2

施設長より……………1

(ページ)

四月号もくじ



つくしの里 ホームページ

<http://www.tsukushinosato.or.jp>



施設長より



三月下旬、県下でも桜の開花宣言が行われ、つくしの里の桜のつぼみも膨らみ、一斉に咲き誇る準備を進めているようです。本誌が届くころには見頃を迎えていると思います。

さて、先月号でもお伝えしましたように、二月初めのコロナ発生から収束まで、ご家族をはじめ関係者の皆様には大変ご迷惑とご心配をおかけしました。

これまで、当施設も県のリスクレベルを基準にした対応方法や感染症対策用事業継続計画を作成し、対策を講じてきました。また、利用者・職員のワクチン接種も済ませ、第三回目の接種も間近にしていきました。ウイズコロナと言われていますが、感染には日頃から十分に気を付けていても、施設は感染者がでると右往左往します。入所施設であれば尚更です。これまでも、職員が濃厚接触者となったケースが幾度ありましたが、事業継続計画を作成していたおかげで事なきを得ました。しかし、一度感染者が発生すると、その感染経路や濃厚接触者の調査をしている間に拡大してしまいます。対策本部を立ち上げ、居住空間を伴う施設内の遮断、人員の確保、勤務表の組み直し、各ユニットの職員の振り分け、車両の振り分け、及び通院車両の感染対策強化、利用者・職員の体調管理と確認の強化、給食配膳方法の変更、陽性者対応の空間の確保とゾーニング、発熱・体調不良者の緊急通院、マスク・ガウン・フェイスシールド等の配布や使い捨て手袋・食器等の追加発注、保健所をはじめとする各関係機関・ご家族への連絡、廃棄物業者との追加契約等々、目まぐるしい日々が続きました。

PCR検査も結果が出るまでは気が休まらず、一度陰性と出て、次の日には症状が出て陽性判定となることもありました。

陽性になられた利用者さんの障がい特性によっては、更なる勤務体制の変更や職員配置も必要となりました。利用者さんも一層制限のかかる窮屈な生活を余儀なくされました。特に、ご家族の皆様は、ご心配だったと思います。会いに行きたいけれども会えないもどかしさ。気が気ではない日が続いたのではないのでしょうか。申し訳ない気持ちでいっぱいです。そのような中、各方面より励ましの温かい言葉やお心遣いをいただきましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

三月中旬には、コロナ発生前のレベル3対応の状況まで元に戻りました。延期していた第三回目のワクチン接種も八割の方が終了しています。引き続き医療機関と調整の上、進めていく予定です。令和四年度は、今回のコロナ騒動を教訓に、事業継続計画を見直していきます。

この記事を投稿している際も、同じような体験をされている福祉事業所があると聞き及んでいます。心より収束をお祈りします。引き続き、紙面を借りて令和四年度の法人理念他をお伝えさせていただきます。

■法人理念

「自律と自由」それぞれの自律にのっとった自由

「畏敬と信頼」お互いの信頼関係に基づく畏敬の念

■経営理念

私達は地域社会に開かれた、地域社会に愛される、地域社会に信頼される施設であることを目指します。

■サービス方針

私達は誰からも満足いただける福祉サービスの提供・改善・情報の伝達に努めます

■基本方針

利用者が、生きがい・喜びを実感し、充実した生活が送れるよう、利用者支援における満足度の向上、重度・高齢化対策、感染症予防、安心・安全のためのリスク管理等を実施する。

施設の設定経緯を慮り、利用者の暮らしを見つめ、利用者理解及び、援助者としての自己理解を深め、さらなる利用者支援の充実、質の向上に努める。また、社会福祉援助者としての価値を見出し、専門職としての円熟を目指す。

■スローガン

「めくばり、きくばり、おもいやり、ありがとう」

基本方針は、文言を少し修正させていただきましたが、社会福祉に従事する者として、最低限の基礎となるものを掲げています。自らを活かし、他者をも活かせる人でありたいものです。

今回のコロナ騒動が落ちついた頃、九年前に亡くなられた利用者さんの命日を迎えました。その方が、お正月の参拝での絵馬や七夕の短冊に毎回同じことを書かれていたのを思い出しました。太平洋戦争を経験されたその方は、ぶれることなく「世界が平和でありますように」と。令和四年度は、事業所はもとより、国内外においても笑顔の多い日がありますように。

施設長 松永 一博

サビ管より

共に生きる大切さ



春を肌や目で感じることのできる季節となりました。桜もきれいに咲き誇り、今の社会情勢から「ほっ」と一息つける穏やかな時間が日常の疲れを癒してくれそうです。

さて、先般発生した福島県沖を震源とする地震で被害にあわれた方、避難されている方におかれましては、二〇二一年の東日本大震災の苦い記憶と重なり、苦しい心境であることと思います。これ以上被害が拡大しないことと一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

日本や世界の社会情勢が毎日報道されるたびに、春の「ほっ」と一息つける時間が心苦しい時間となり気が重なりません。

日本では、福島県沖の地震と依然として続くコロナ禍の状況。世界では、ロシアによるウクライナ侵攻。自然の脅威と人の脅威にどうにかならないものかと毎日考えさせられます。特にロシアによるウクライナ侵攻では、緊張感が高まる中、ウクライナでのたくさんの被害や死者が報道されています。世界平和や地球温暖化対策に向けて歩んでいる二十一世紀のこの時代に、こういうことがあっていいのかと憤りを感じます。ロシア側が核の使用をちらつかせる発言も報道され、唯一の核被爆国である日本の再現はあってはならないですし、一人の命を大切に世界であってほしいと切に願います。核が使用されれば、間違はなく多くの死者や被害者が出てしまいます。そして、放射線により、多くの動植

物や自然界にも影響が出ます。

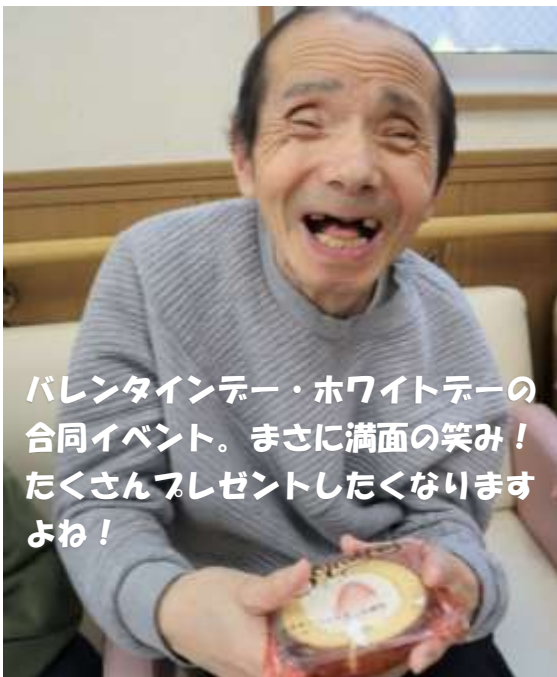
個人の考えですが、国の統治はその国によって決められるべきでもであり、自国の「考え・大義」を別の国にも押し付け、自分たちのものにしようとする「欲」の代償として多くの犠牲を払うことはいかなるものかと思えます。

一九〇四年に起きた日露戦争は皆さんもご存じだと思います。当時の大国ロシアが小国日本に負けるとは誰もが想像しなかったでしょう。軍事力・経済力で劣っていた日本がロシアに勝てた背景には、いくつかの要因があったと言われています。まず、戦う兵士の意欲や士気の差があったそうです。ロシアから見れば小国である日本に負けるわけがないと楽観視していたこともあり、ロシア軍の士気が低く軍の統率力が低下していたこと。反対に日本からすれば大国ロシアに勝たなければという強い士気が日本軍にあったと言われています。次に、綿密な戦略や計画がロシア以上に日本が優れていたことも言われています。士気の高さ、綿密な計画により日本軍は当時無敵と言われていたロシア軍のバルチック艦隊を全滅させ勝利を治めたそうです。

戦争を正当化するつもりはありません。戦争にかけるエネルギーをもっと違う形で使うことに向けてもらいたいと思います。ウクライナ侵攻にかけるエネルギーや士気、計画を世界平和や地球のためにつかってもらえれば違う形で違う結果が出てくるのではないのでしょうか。

士気と計画性とエネルギーは、どの場面でも、どのような状況であっても使いようによっては良い影響や結果を出します。

施設 PR 委員会 今月の 1 枚！



バレンタインデー・ホワイトデーの合同イベント。まさに満面の笑み！たくさんプレゼントしたくなりますよね！

福祉の立場で置き換えるならば、支援員一人ひとりが意欲や士気を高め、綿密な計画のもとに、そのエネルギーを利用者支援に使っていくことができれば、利用者の方の幸せや豊かな人生につながっていくものと信じています。「二人はみんなのために、みんなは一人のために」という言葉がありますが、私達はどんな状況であってもお互いに助け合い、支えあっていかなければなりません。この世に生を受け、共に生きていくためのルールだと私は思います。

今、世界や日本情勢は地震やコロナ、侵攻の報道ばかりで心が痛む毎日ですが、「ホッ」と一息つける穏やかな時間がいち早く、たくさんの方に訪れることを願いながら、明日もまた、きれいに咲く桜を見上げたいと思います。

支援係長 竹下 幸樹

相談より

「その人らしさを発揮できる環境を」

令和四年度も相談支援専門員として、相談業務に従事させて頂くことになりました。

平成二十五年度に施設入所契約の方、生活介護契約者の方の支援からスタートし、相談業務だけでも十年目を迎えました（つくしの里での勤務は十九年目になりました）。平成二十八年からは外部の方の支援もさせて頂き、児童も成人も多くの出会いがありました。受け入れを始めた当初に担当させて頂いた方は、一般就労に移行されたり、療育が必要ないところまで成長が見られたりして、契約を終了される方も多くなりました。関わりがなくなることは寂しいことではありますが、ある意味では目標を達成し、次のステップに進む嬉しい別れでもあります。契約利用者が適度に入れ替わりながらも、ありがたいことに随時ご相談を頂き、契約者数も毎年増加傾向にあります。

障がい福祉サービスのステップアップを考えると、成人で言えば、施設入所からグループホーム、生活介護から就労継続支援B型、就労継続支援A型から一般就労などが考えられます。

児童で言えば、療育事業所を卒業し、学校や保育園などの集団で友達と仲良く過ごせること、家庭や外出先などでも穏やかに過ごせることなどがあるかと思えます。

つくしの里の利用者さんを見てみると、就労系の事業所やグループホームでもやっていけるのではないかと思う方もいます。逆

に今の環境が合っていて、変に無理をする必要はないと思う方もいます。

就労事業所を利用されている方も、一般就労を目指そうとしている方と、一般就労で多くを求められるよりも就労事業所の方が居心地が良いと、長く利用されている方もいらっしゃいます。どれも正解だと思います。

その人らしさ、その人の良さが最も発揮される環境であれば、ゴールの設定はどこでも良いと思います。私は相談員の仕事は、そのゴールに向かう過程のお手伝いをする調整役と認識しています。しかし、支援者側が「これは無理だろう」と本人の可能性を潰したり、最初から前向きな考えにすら至らなかったりするのはいけないと思います。自身の価値観は一旦外して、広い視野を持って、適切な支援や判断をしていけるように、この一年間も頑張っていきたいです。

相談支援専門員 井上 真次



新入職員研修



3月14日(月)から新入職員の研修が始まりました。

各班をまわったり、会議に出席したり、交替勤務を経験したり、目まぐるしい毎日です。

先輩職員たちにも良い刺激になったようです。



職員より



「生きがいとは？」担当している利用者さんの活動を見ていた時に出た疑問です。私の担当のTさんは還暦を過ぎています。足腰は丈夫で、とても元気です。私もTさんと挨拶や外を見ながら話しをするのが好きです。

現在4班では、日中は個別活動とあって、利用者さん一人一人に応じた活動を行っています。Tさんも積み木のボールを筒に入れる活動などに取り組まれています。毎日、個別活動に勤しんでおられますが、ふと「きっと好きでやっているわけではないんだろうな」と思いました。私たちも好きな事に没頭する事はあると思います。私も36歳になり、色々な考え方に触れるうちに、仕事に対して「なぜこの仕事をしているのだろう」と突然、自問自答することがあります。だからこそ、Tさんを見て「好きな事をやっているのだろうか」と考えてしまうのです。ひょっとしたらTさんはすでに好きな事をこのつくしの里で見つけているかもしれません。しかし、自分の事を話すのが苦手な人ですから、なかなか教えてくれません。いつかTさんの事も深く知る日が来たら良いなと思う3月の夜なのでした。
(支援員 尾崎か)

つくしの里に入職してからもうすぐ1年が経ちます。入職したての頃は分からない事いっぱいでしたが、今では自分で出来る事も増え、仕事に対してやりがいを感じています。けれども、まだまだ教わらなければならない事もあると思うので、できるだけ早く覚えて自分で出来るよう努力していきたいです。

入職当初に比べて、利用者さんも私の名前を呼んで下さったり、近くに来て話して下さいと、私を職員として受け入れていただいている事にとっても感謝しています。毎日、出勤するのがとても楽しみです。日々、大変な事や辛いこともあります。利用者さんとコミュニケーションを取る事でとても癒されます。

コロナの感染者数も増減して、一日一日が大変ですが、少しでも早く治まって皆さんと楽しい行事ができることを願っています。
(支援員 小城)

調理場より

健康診断の時期になりました。利用者さんの結果が私の通知表のように感じ、看護師から結果を見せてもらうときは毎回緊張します。

私は、つくしの里の食を預かる身でありながら2年前にコロナ太りをしてしまいました。私と同年、同じ身長の利用者Nさんがいらっしゃいますが、適正体重を維持されています。よく縄跳びをし、駅伝大会にも参加されていました。「負けられない」と思い、お酒を我慢し、運動を始めました。最近やっと成果が出て来ましたので今年健康診断結果は昨年より改善されていると思います。次の目標はN主任を追いかけてマラソン大会に出場することです。健康な体で勤務し、利用者さんに信頼していただけるかっこいい栄養士を目指します！



(管理栄養士 奈須)

3月のあれこれ

各棟分離が解除され、やっといつもの生活が戻ってきました。

★ 利用者さんの自治会「どぎゃん会」で令和4年度の事業計画について説明しました ★

利用者さんが少しでもわかりやすいように、いきいきグループ、きらめきグループ共に映像を使って話しをしました。一番知りたかった担当職員も発表され、大いに盛り上がりました。

令和4年度もみんなで楽しく頑張りましょう！



★ 人材確保推進委員会ではオンライン見学会も実施しました ★

新型コロナウイルスの影響もあり、昨年から新卒者向けにオンライン見学会を実施しています。

施設を案内しながら、活動の様子や設備を見てもらい、学生さんに身近な1年目の職員や利用者さんとも話してもらいます。まずはつくしの里を知ってもらうことからです。



行事予定



☆ 入職式・辞令交付式 (つくしの里)

期 日：4月1日 (金)

内 容：2名の新入職員を迎えると共に、5名の職員が永年勤続表彰を受けます。

☆ 利用者健康診断 (つくしの里)

期 日：4月13日 (水)・20日 (水)

内 容：しっかり診てもらって健康管理に努めます。



☆ 新型コロナウイルスワクチン接種3回目 (つくしの里)

期 日：4月18日 (月)

内 容：入所とグループホームの利用者さんで希望されている方が対象です。

ありがとうございます



今月の掲載分は、
令和四年二月二十一日～
令和四年三月二十日です



【寄付・寄贈】

・今坂 桂子 様 ・岩根 治美 様
・下村 一恵 様 ・田代 千恵子 様
・藤野 幸子 様 ・長島 章子 様
・高宗 沙紀 様 ・井上 真次 様
・池田 朋哉 様
・つくしの里保護者会 様



誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きます。

退職者あいさつ

三月三十一日付で二名の職員が退職いたしました。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

○ 穴井 るみ子 【支援員】

(平成二十八年一月採用)

利用者の皆様と過ごした六年間は、過ぎてみればあつという間でしたが、日々学びや感動があり充実した毎日を過ごすこと



○ 松川 幸介 【支援員】

(平成二十九年六月採用)

が出来、感謝の気持ちで一杯です。ご家族様にも、温かい言葉で支えて頂きありがとうございます。つくしの里の益々の発展と、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

利用者の皆様と過ごした時間は、日々、勉強と笑顔の繰り返しでした。今まで経験していない内容で新鮮な気持ちで仕事をする事が出来ました。ご家族様にも気兼ねなく接して頂きありがとうございました。コロナ禍で大変な状況ですが、つくしの里の益々の発展と皆さまのご健康をお祈り申し上げます。

編集後記

つくしの里の桜も満開を迎えました。うらかな春の日にも、コロナ感染症の終息と世界平和を願う毎日です。



※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して、記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。